



Building Refugee's Brighter Future

Support for Self-reliance and
Livelihoods Projects in Asia

Annual Summary Report 2018



難民の明るい未来をつくる

アジアにおける自立・生計支援プロジェクト

2018年 UNHCR 活動報告書

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の自立・生計支援プログラム

UNHCR は、難民や UNHCR の支援対象者 (PoC)¹の自立を重視し、優先して取り組んできました。UNHCR が長年にわたり続けてきた難民の生計能力の向上や経済的な機会の拡大を通じた難民の自立の促進は、「難民に関するグローバル・コンパクト」の中でも、4つの主要な目的の1つとしても掲げられています。

「難民に関するグローバル・コンパクト」とは、難民の数が急増し、世界各地で発生している危機への対応が急がれるなか、難民を取り巻く状況を改善し、予測可能で公正かつ公平な社会の実現を目指して、2018年12月17日の国連総会で採択された国際的な取り決めです。強制移動の恒久的解決を達成するために、社会全体による包括的な取り組みの重要性を挙げています。グローバル・コンパクトにおいては、従来の UNHCR の任務である難民の保護と彼らの長期的な生活の向上と同様に、難民の自立支援も重要な活動指針の1つとして位置づけられています。

株式会社ファーストリテイリングと UNHCR のグローバルパートナーシップは、アジア地域の難民の包括的で長期的な支援に寄与しています。技術・職業訓練、小規模ビジネス開発、雇用促進や貯蓄・自助グループの形成は、難民の自立を促進します。また、ファーストリテイリング社員の UNHCR オフィス派遣プログラムや難民を雇用する「RISE (Refugee Inclusion Supporting Empowerment) プログラム」、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトなどの教育プログラムなどを通じたファーストリテイリングの活動や難民支援は、難民保護における「予測可能で公平な負担と責任の分担 (responsibility sharing)」と位置づけることができ、「難民に関するグローバル・コンパクト」のコンセプトと合致しています。



イランで職業訓練を受講した、ナスリン (Narsrin) さん。夢だった仕立て屋のビジネスを開始。顧客からの注文を受けてミシンに向かう ©UNHCR/Iran/2018



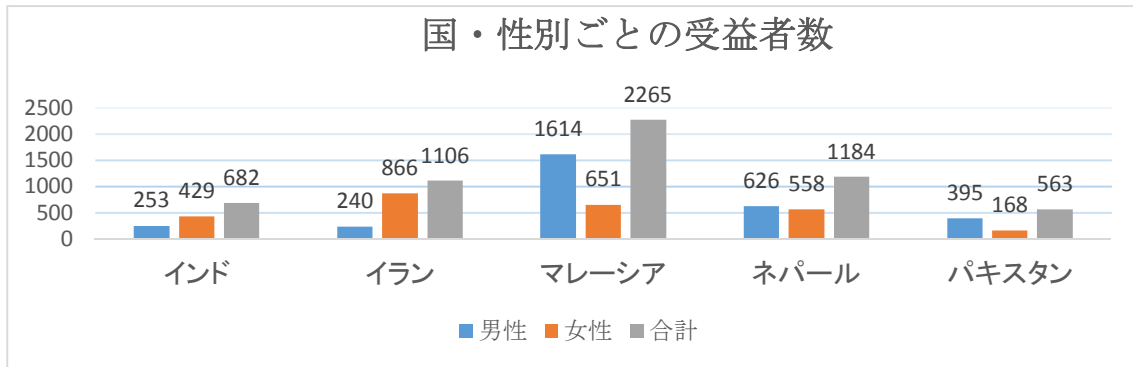
ネパールのジャバにある、ベルダンジ (Beldangi) キャンプにて。スキル開発のためのトレーニングを受けたブータン難民の女性たちがピクルスの生産を行っている ©UNHCR/Nepal/2018

ファーストリテイリンググループは難民支援において、企業のサステナビリティ活動の先駆的存在であり、UNHCR はパートナーシップを組んで活動できることを誇りに感じます。2018年にご支援いただいた自立・生計支援プロジェクトの活動報告ができることを大変光栄に思うと同時に、UNHCR はファーストリテイリンググループとのパートナーシップに感謝いたします。

¹ UNHCR の支援の対象となる人 (Persons of concern to UNHCR) のことで、任務として UNHCR が保護および支援を与えるすべての者を指す。難民、庇護希望者、帰還民、無国籍者、そして多くの場合国内避難民 (IDP) が含まれる。難民を除く関心対象者の代理として行動する UNHCR の権限は国連総会および経済社会理事会による様々な決議にもとづいている。

ファーストリテイリング/ユニクロの支援による UNHCR の 2018 年自立・生計支援プロジェクトの達成状況概要

- 合計 5,800 名が自立・生計支援プロジェクトの支援を享受
- 男女の内訳は、女性 2,672 名 (46%)、男性 3,128 名 (54%)
- 各国が設定した受益者の合計目標数(5,908 名)における達成率は 98%



ファーストリテイリング/ユニクロの支援による自立・生計支援プロジェクトの結果概要

活動	合計			男性		女性		若年層	
	目標	実績	%	目標	実績	目標	実績	目標	実績
インド									
デリー、メワット、ジャイプール地域の活動合計	425	366	86%	-	168	-	198	-	24
スキル・職業トレーニング	70	15	21%		15		-		1
ファイナンシャルサービスへのアクセス	100	101	101%		32		69		18
起業トレーニング	155	202	130%		87		115		5
雇用/実習	100	48	48%		34		14		0
ハイデラバード地域の活動合計	385	316	82%		85		231		147
スキル・職業トレーニング	140	133	95%		30		103		77
ファイナンシャルサービスへのアクセス	120	120	100%		24		96		46
独立経営	90	41	46%		19		22		17
賃金雇用へのアクセス	35	22	63%		12		10		7
合計	810	682	84%		253		429		171
イラン									
職業トレーニング	840	840	100%	20%	240	80%	600	100%*	756
在宅事業開発(スタートアップ)	107	156	146%	0		107	156	50%*	126
雇用創出(トレーニング+OJT)	180	110	61%	0		180	110	50%*	82
合計	1,127	1,106	98%	168	240	959	866	984	964
マレーシア									
就職準備トレーニング	2100	2030	97%	50%	1,517	50%	513	20%	670
小規模事業開発 (MED)	30	30	100%	40%	16	60%	14	20%	4
社会保護プロジェクト	220	205	93%	60%	81	40%	124	30%	49
合計	2,350	2,265	96%	1,194	1,614	1,156	651	492	723
ネパール									
スキル・職業トレーニング & 企業サポート	105	105	100%	88	93	17	12		40
職業トレーニング & CTEVT スキル認定	115	114	99%	42	33	73	81		48
自助グループ (Self-Help Group) 支援	306	419	137%	165	180	141	239		116
福祉技術試験の支援	24	23	96%	8	3	16	20		23
国際労働機関認定トレーナーによるビジネス開発トレーニング	248	248	100%	123	123	125	125		74
就職ガイダンス・斡旋	260	275	106%	150	194	110	81		89
合計	1058	1184	112%	576	626	482	558		390
パキスタン									
脱貧困パイロットプロジェクト	563	563	100%		395		168		200
合計	563	563	100%	0	395	0	168		200
総計	5,908	5,800	98%	1,938	3,128	2,597	2,672	1,476	2,448

注1: 若年層グループの年齢は各国により異なる。イランは18歳から35歳、インドは18歳から21歳、ネパールとパキスタンは18歳から30歳、マレーシアは29歳以下に分類。

注2: ネパールで行われた国際労働機関認定トレーナーによるビジネス開発トレーニングの248人の参加者のうち152人は、「自助グループ」支援プロジェクトにも参加。

ファーストリテイリングの支援は、対象国におけるパートナーシップや生計に関わる各地域のサポートシステムの構築にも貢献しました。イランでは、UNHCR のパートナーである TVTO (労働と社会問題を取り扱う省庁の傘下

団体)と共に、国際労働機関(ILO)が定める 111 の職業・技術トレーニングコースのうち、コンピューター、工事、自動車整備、電気技工、農業を含む 50 の分野のトレーニングを UNHCR の支援対象者に提供しました。

インドのハイデラバードでは、UNHCR とセーブ・ザ・チルドレン・インターナショナルが、ロヒンギャ難民の支援に関心をもつ現地の政府や企業と友好的なパートナーシップを構築し、ロヒンギャ難民の雇用機会の拡大を促進しました。

さらにネパールでは市民社会、地方自治体、NGO、企業が一緒になって形成した自立・生計支援のタスクフォース(LTF)が再編され、アドボカシー活動や持続可能な生活のためのイニシアチブが発足しました。2018 年における主な成果の一つは、政府との間で、難民が持つ技能を職業訓練評議会(CTEVT)を通じて認定する合意に至ったことであり、さらにその認定プロセスを進める技術委員会を設立したことにより、難民の就業やマーケットへのアクセスがスムーズになりました。

主な成果・結果

インド

- 11 のビジネスグループを形成(手工芸品制作グループ、キャンドル制作グループ、リサイクル紙・リサイクル文房制作グループ、食品・ケータリンググループ)。ほとんどのグループはすでにオーダーを受注、その売り上げでビジネスに必要な備品・資材を調達。
- 48 名の難民がインフォーマルセクターで就業(デリリー:16 名、メワット:30 名、ジャイプール:2 名)。
- 起業トレーニングを実施し、対象者の 90%(101 名中 91 名)が事業を開始し、顧客から受注開始。
- 金融サービスのトレーニングを受けた対象者全員(120 名)が自助グループを設置・参加し、その 3 ヶ月後に貯蓄を増加。
- 8 日間の起業トレーニングを受けた対象者全員(47 名)に事業補助金を支給。全ての対象者がビジネスを開始。
- 上記のトレーニング参加者の 73%(41 名中 30 名)が生産グループに参加。

イラン

- イランの 15 の州で計 1,106 名のアフガン難民(女性 78%、男性 21%)とその家族がプロジェクトの恩恵を享受。
- 156 名の在宅事業開発(スタートアップ)プロジェクト参加者全員が、全てのカリキュラムを修了。間接裨益者の総数は 780 名。
- 職業訓練受講者の 68%(840 名中 571 名)が、研修を通して得た技術の証明書を受領(一般の平均証明書受領率は 60%)。
- 雇用創出(トレーニング+OJT)プロジェクト対象者 110 名全員がトレーニングを修了。間接裨益者(参加者の家族)の総数は 550 名。

マレーシア

- 小規模事業開発(MED)を通して、6 ヶ月間の起業トレーニング、スタートアップ補助金、メンター制度の受益者の 93%(30 名中 28 名)がコースを修了、スタートアップ資金を受領。
- パン製造の研修を受けた 25 名のソマリア難民女性が自宅でパンの製造・販売を開始。
- 電気工事とエアコンの修理の研修を受けた 72%(25 名中 18 名)が、250 ドルから 650 ドルの月収を報告。
- 小規模事業開発(MED)参加者の 76%(29 名中 22 名)が、受講後の世帯収入の増加を報告。
- 小規模事業開発(MED)参加者の 96%(29 名中 27 名)が自分に自信を持ち、自分の考え方のポジティブな変化を実感。

ネパール

- 873 名のブータン難民および受け入れコミュニティがプロジェクトの恩恵を享受。
- 87%(105 名中 91 名のブータン難民および 29 名の受け入れコミュニティのメンバー含む)がスキル・職業訓練を修了、起業サポートを受ける。
- 上記訓練修了者の 88%が、2018 年末までに訓練を受けた職業と同じ職業で自営業を開始。
- ダマックおよびパタリ-サニツャレ地域の 261 名(女性 81 名(31%))を含むに就業オリエンテーションと職業紹介を実施。

- 自立支援および資金へのアクセス向上を目的とし、419名の支援対象者(239名(57%)の女性を含む)が12の自助グループを形成。
- スキル・職業訓練と企業サポートの支援を受けた35名の都市部に居住する難民全員がビジネスを始め、収入を確保。
- 70名の都市部に移住する難民に自立のためのコーチングや、ガイダンス、技術的な支援を提供。

パキスタン

- 563名がプロジェクトの恩恵を受け、自営業を始めるためのスキルを習得。
- 200名(70%がアフガン難民)が、電気工事、携帯修理、車の運転、仕立て、およびコンピューターに関する3ヶ月間の職業訓練を受講。
- 最貧困層(主に女性、若年層、小規模農家)に属する563名が、持続可能な方法で貧困から抜け出すために収入の増加や資産の多様化を可能にする生計を確立。
- 受け入れコミュニティからの参加者169名が金融サービスや投資機会へのアクセスを改善。
- 就業につながるスキルを習得した40%の参加者(563名中225名)に、インフォーマルセクターで起業するために必要な備品・資源を提供。
- プロジェクト実施を通じて、受け入れコミュニティのパキスタン人参加者とアフガン難民の間で社会的調和が促進。社会的な結束強化に寄与。

2018年度 自立・生計プログラム財務概要

	予算			支出		
	生計プログラムの予算合計	ユニクロからの拠出金	生計プログラムにおけるユニクロの拠出金の割合	生計プログラムの支出合計	ユニクロからの拠出金	生計プログラムにおけるユニクロの拠出金の割合
インド	\$393,964	\$229,202	58%	\$405,113	\$229,202	57%
イラン	\$1,472,042	\$555,714	38%	\$1,311,450	\$555,714	42%
マレーシア	\$653,817	\$362,594	55%	\$646,358	\$362,594	56%
ネパール	\$357,814	\$180,136	50%	\$328,212	\$180,136	55%
パキスタン	\$4,139,283	\$425,055	10%	\$3,842,388	\$425,055	11%
日本(ワークショップなど)		\$23,000			\$23,000	
7%のプログラム支援費用(PSC)		\$124,299			\$124,299	
合計	\$7,016,920	\$1,900,000	27%	\$6,533,521	\$1,900,000	29%

自立・生計支援プロジェクト 財務概要 (2016年-2018年)

オペレーション	2016	2017	2018
インド	546,840	468,052	229,202
イラン	450,000	450,000	555,714
マレーシア	560,748	423,006	362,594
ネパール	102,804	112,150	180,136
パキスタン	0	205,607	425,055
日本	21,851	23,428	23,000
7%のプログラム支援費用(PSC)	117,757	117,757	124,299
合計	1,800,000	1,800,000	1,900,000

2018年度 支出内訳(米ドル)

国	プロジェクト	受領した金額	支出			残高
			UNHCRプロジェクト	UNHCRスタッフ	実施団体	
インド	デリー、メワット、ジャイプール地域におけるトレーニングと雇用機会を通じた自立支援	170,997	0	60,751	110,246	0
	ハイデラーバードにおけるコミュニティエンパワーメントと自立支援	58,205	0	0	58,205	0
イラン	職業トレーニング(TVTO)	268,000	0	68,000	200,000	0
	在宅事業開発(スタートアップ)(Ilia, Kowsar, Part of PDA)	89,714	0	29,714	60,000	0
	雇用創出(トレーニング+OJT)(IWRF, Kiyana, part of PDA)	198,000	0	68,000	130,000	0
マレーシア	就職準備トレーニング	89,613	0	3,316	78,947	7,350
	戦略立案・実行	221,428	237,105	10,077	3,690	29,444
	部門別資金供与(livelihood)	29,888	0	745	17,746	11,397
	賃金雇用の促進	21,662	10,524	442	0	10,696
ネパール	ブータン難民への起業・ビジネススキルトレーニング、職業訓練サポート	122,993	0	36,898	86,095	0
	都市部の難民へのビジネススキルトレーニングとスタートアップ費用	57,143	0	17,143	40,000	0
パキスタン	職業訓練/技術スキルトレーニング	425,055	0	127,517	297,538	0
日本	ワークショップほか	23,000	-	-	-	-
7%のプログラム支援費用(PSC)		124,299				
合計		\$1,900,000	\$247,629	\$422,603	\$1,082,467	-
支出別割合(PSCを除く)		100%	13.9%	23.8%	61.0%	-

年間の成果

インド

- 起業家トレーニングに参加した 41 名**全員**がコースを修了し、ビジネスプランを立案
- 自助グループに参加した 120 名**全員**が、グループワークを通して自信をつけ、研修の 3 ヶ月後には以前に比べ家計の貯蓄向上
- 裁縫・刺繍・かぎ針編み、宝飾製作、アップサイクル製品、服、そして食品・ケータリングを扱う11のビジネスグループを形成

イラン

- 男性 240 名、女性 866 名を含む **1,106 名**が、ユニクロの支援を享受。うち 87%が若年層
- **571 名**の難民が研修を通して、技術の習得証明書を取得
- 156 名の女性がビジネストレーニングを修了し、家族 **780 名**も裨益
- 雇用創出のための見習い実習または OJT に参加した難民の女性**全員**(110名)が実習やトレーニングを修了

マレーシア

- **2,265 名**(男性 1,613 名、女性 651 名)がユニクロの支援を享受
- 19ヶ国からマレーシアに逃れてきた **786 名**の支援対象者が銀行口座を開設
- **75 名**のロヒンギャ難民とソマリア難民が、職業および技術訓練を修了
- 15~18 歳の **39 名**の若者が、12 ヶ月のユース起業トレーニングを修了
- **205 名**の脆弱な立場にいる女性や若者の支援対象者が、ライフスキルおよび職業の訓練を受講

ネパール

- 職業訓練に参加したブータン難民の **90%**が訓練を修了し、証明書を受領
- 上級コースの職業訓練を受けたブータン難民および受け入れコミュニティのメンバーの **88%**が、訓練で得た技術を使って自営業を開始
- 技術研修とビジネスのスタートアップ支援を受けた都市部の難民の**全員**が起業
- **35 名**の都市部の難民に起業・ビジネス研修と起業サポートを提供
- **70 名**の都市部に移住する難民に自立のためのコーチングや、ガイダンス、技術的な支援を提供

パキスタン

- **220 名**が生計に関するトレーニングを修了し、その後 3 ヶ月以内に就職、もしくはビジネスを開始
- 70%を若者が占める **200 名**が、3 ヶ月間の職業訓練(パソコン・衣類仕立て・車の運転・配管工事・電気工事・携帯修理)を修了
- **563 名**がミシン、パソコン、家畜等を使ったビジネスに必要な資産を提供

現場からの声

インド ファーハット(Farhat)さんの話

「ILHAM はただのビジネスでなく、私の人生のなくてはならないものです」



2014年、夫を亡くしたファーハットさんは3歳の息子と二人でアフガニスタンからインドに逃れてきました。インドに着いてからはほかの難民と同じように、家族の生活を維持することや、強制移動のトラウマと向き合うなどの試練に直面しました。

2015年9月、彼女はシングルマザーが主体の難民グループのメンバーとなり、インドのニューデリーで行われた展示会にてアフガン料理の屋台を出しました。そこで大反響を呼び、グループの名前を「ILHAM」(ダリー語で希望の光)と名づけ、本格的な事業化に乗り出しました。彼女たちは UNHCR の研修で培ったスキルを活かし、新たな屋台設置場所の開拓や、マーケティング、新規の顧客開拓を行いました。

現在、ILHAM はケータリング事業に成長しました。事業は黒字で、2018年にはインド政府当局からライセンスを取得し、正式に事業として登録されました。ILHAM の顧客は多様で、政府、学校、そして一般の個人からもオンラインで注文を受けています。この事業の成功もあり、ファーハットさんは家族の教育や医療にかかる費用を支払うことができます。ILHAM の成功は、ファーハットさんの経済的自立を可能にしただけでなく、トラウマを乗り越え、周りの難民女性やシングルマザーをも勇気付けています。

イラン マルジエ(Marzieh)さんの話

「収入を得るだけでなく、自分の尊厳も取り戻すことができました」



マルジエさんは(33歳)は、難民2世としてイランで8人の兄弟姉妹の大家族に生まれました。2001年に父親が他界してからは、父親の収入で生活していたマルジエさんの家族は経済的な困難に陥り、マルジエさんも家計を立て直すために立ち上がりました。

2018年にマルジエさんは難民女性の自立を促すことを目的にした衣服のデザインコースに合格しました。このコースは女性たちが自分の家にいながらビジネスを始めることが可能になるように設計されています。受講者には仕立てやデザインのスキル、起業に向けたアドバイス、さらにビジネスを始めるための設備投資のための資金が与えられました。

コース修了後、マルジエさんは衣服の仕立てビジネスを始め、さらに他の難民女性たちにドレスのデザインを教え始めました。現在、ビジネスは黒字で、マルジエさんは今後のさらなる成長に向かって邁進しています。「できれば大学に入り、もっと衣服デザインの知識を身につけたいです。そして、他の難民の方々にも私の知識を共有し、彼らが自立するためのスキルの一つにもなれば」と語ります。

マレーシア アブディナジャ(Abdinasir)さんの話

「ビジネスを始める自信ができました」



アブディナジャさん(21)はソマリアから逃れてきた難民です。仕事があった頃は、月に125ドルの収入がありました。アブディナジャさんは UNHCR が行っている、起業に向けたマイクロ・エンタープライズ・プログラム研修に参加し、5ヶ月間の研修期間で、ビジネスの認可をとるプロセスやマーケティング、経理などについて学びました。さらに、仕立て屋ビジネスを始めるにあたって中古のミシンを買うために、500ドルの補助金も得ることができました。

2018年12月、アブディナジャさんは研修を修了。その後、ミシンの使い方を学び、自分の家の近くで、他の店から簡単な服の直しを受託する小さな仕立て屋を始めました。

今では利益が月 250 ドルになり、新しいミシンを購入したことで仕立ての仕事の幅も広がりました。アブディジャナさんの家族の収入も以前の 3 倍である、月に約 375 ドルになりました。アブディジャナさんがビジネスを始め、徐々にその幅を広げていったことで、安定した収入を手に入れることが出来るようになったのです。

ネパール ボンパ(Bhompaa)さんの話

「私の仕事は、家計を支え、さらに家族の人間らしい生き方を可能にしています」



現在 19 歳のボンパさんはネパールにある難民キャンプで暮らすブータン人家庭に生まれました。彼は家族と一緒にジャパやモランなどの地域の仮設住宅や難民キャンプを渡り歩きながら育ちました。19 歳になったボンパさんは結婚し、最愛のパートナーである妻、そして祖父母と叔母と暮らしています。

彼は初等教育を修了することができましたが、経済的な問題からその後の教育を受けることができませんでした。また、彼の家族は政府機関からの支援に完全に依存していたため、その支援が少なくなった途端、最低限の生活を続けていくことが困難になりました。

ボンパさんは 2018 年 6 月に UNHCR の職業紹介プログラムを通じての近所の自転車組立工場で職を得ることができました。今では、月額 8,000 ネパールルピー(80 米ドル)以上の収入を得ています。「仕事をもらえたことで、私は家計を助け、家族を支えることができるようになりました」とボンパさんは語ります。

パキスタン サマール(Samar)さんの話

「衣服仕立てトレーニングを受け、家の中で起業をすることが出来ました」



サマールさん(40)は、パキスタンにあるバラカイ難民キャンプで、3 歳から 17 歳の 8 人の子もたちと暮らすアフガン難民です。夫は日雇い労働者で、家族を養うために必要な安定した収入がありません。

2018 年 9 月にサマールさんは、高度な仕立ての技術と起業について学ぶ、技術開発プロジェクトに参加しました。以前から衣服の仕立てに強い興味を持っていましたが、自信がなく、挑戦出来ずにいました。研修を終えた後、サマールさんは支給されたミシンを使って、自分の家で仕立てのビジネスを始めました。顧客を獲得するために近所の家を訪ね、値引き価格を提示し、自分のビジネスの宣伝をしました。そんな努力の甲斐もあり、地元の女性や親戚から徐々に注文が入るようになりました。顧客からは、サマールさんのクリエイティブなデザインやコストパフォーマンスの良さ、さらに丁寧な裁縫技術が評判になっています。

現在サマールさんは月約 60 米ドルを稼ぎ、家族の生活を支えています。子どもたちには本や制服、通学かばんを買うことができ、毎日楽しく学校に通っています。「研修を通して自分に自信ができました。将来は仕立て屋と平行して、家で女性服のお店を開きたいです」と、サマールさんは自分の目標について話します。